

高梁市 都市ビジョン (地域編)

高 梁 市

平成25年3月

目 次

1. 都市ビジョン（地域編）策定の趣旨・・・・・・・・・・P1
2. 社会的背景と各地域の共通課題・・・・・・・・・・P2~4
3. 各地域の現状と将来像
 - I 有 漢 地 域・・・・・・・・・・P5. 6
 - II 成 羽 地 域・・・・・・・・・・P7. 8
 - III 川 上 地 域・・・・・・・・・・P9. 10
 - IV 備 中 地 域・・・・・・・・・・P11. 12
4. 各地域間の連携・・・・・・・・・・P13
5. 推 進 方 針・・・・・・・・・・P14

1. 都市ビジョン(地域編)策定の趣旨

1 | 都市ビジョン(地域編)策定の背景・目的

平成16年10月1日に、高梁市、有漢町、成羽町、川上町、備中町の1市4町が合併し、新高梁市が誕生して8年が経過しました。

新市発足後については、旧市町が合併前までに取り組んできたまちづくりの考え方を推進するため策定した「新市まちづくり計画」を基本に高梁市総合計画を定め、施策の展開を図ってきました。

都市ビジョン(地域編)については、人口減少や少子高齢化の進展、空き家の増加など新たな課題に対応し、各地域の中心部としての機能の見直しや再編、生活基盤整備、地域間の連携を図り、地域の持続的な発展と魅力あるまちづくりを推進するための指針として策定します。

2 | 対象エリア

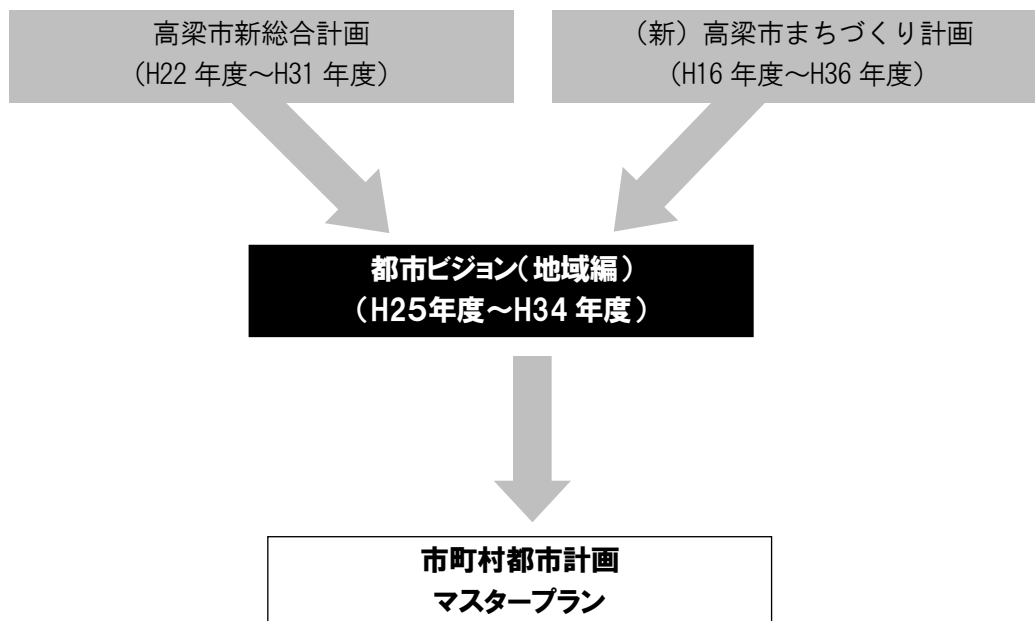
有漢地域 成羽地域 川上地域 備中地域

3 | 目標年次

本ビジョンでは、高梁市新総合計画(以下「総合計画」)の計画期間に合わせて、短期的な都市づくりの方針や施策・取り組みを展望する短期的目標を5年後の2017年(平成29年)とし、また、目指すべき将来都市像を示す長期的目標を10年後の2022年(平成34年)とします。

4 | 都市ビジョン(地域編)の位置付け

「都市ビジョン(地域編)」は、総合計画や(新)高梁市まちづくり計画等の上位計画と整合を図りながら、総合計画に示された高梁市のまちづくりについて、各地域の施策の具現化や地域間の連携を図り、地域のまちづくりの将来像を示します。



2. 社会的背景と各地域の共通課題

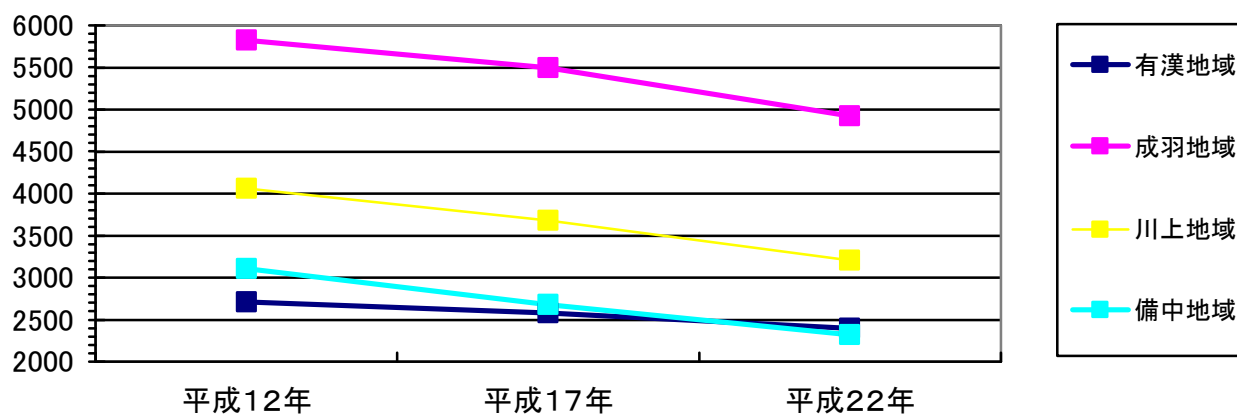
1 | 人口の減少

各地域の人口については急激な減少傾向にあり、平成22年の国勢調査では、前回調査年から1,588人の減少であり、高梁市全体の減少(3,836人減)中の41%を占めています。

(1) 人口推移 (国勢調査)

(単位：人)

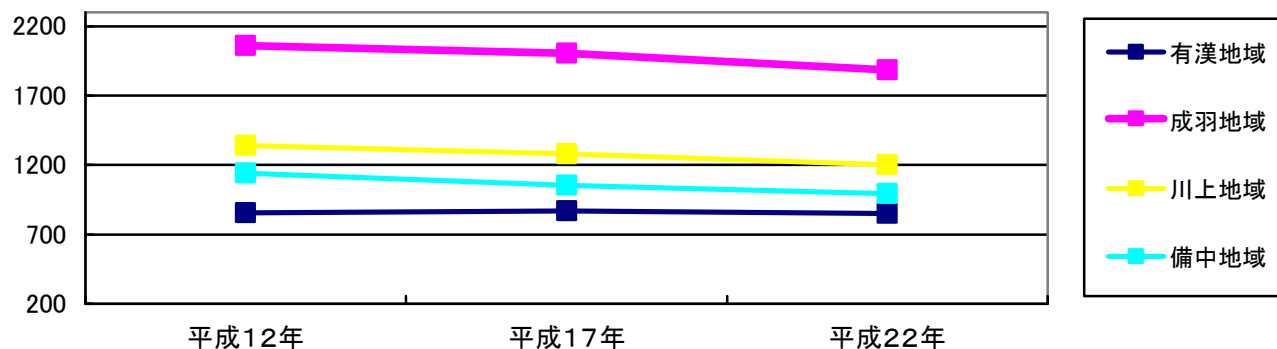
	平成12年	平成17年	増減	平成22年	増減	備考
有漢地域	2,709	2,582	△127	2,397	△185	
成羽地域	5,825	5,496	△329	4,926	△570	
川上地域	4,064	3,683	△381	3,207	△476	
備中地域	3,105	2,677	△428	2,320	△357	
計	15,703	14,438	△1,265	12,850	△1,588	
高梁市全体	41,077	38,799	△2,278	34,963	△3,836	



(2) 世帯数の推移 (国勢調査)

(単位：戸)

	平成12年	平成17年	平成22年	備考
有漢地域	854	869	851	
成羽地域	2,058	2,034	1,885	
川上地域	1,340	1,282	1,203	
備中地域	1,141	1,053	993	
計	5,393	5,238	4,932	
高梁市全体	15,376	15,325	14,121	



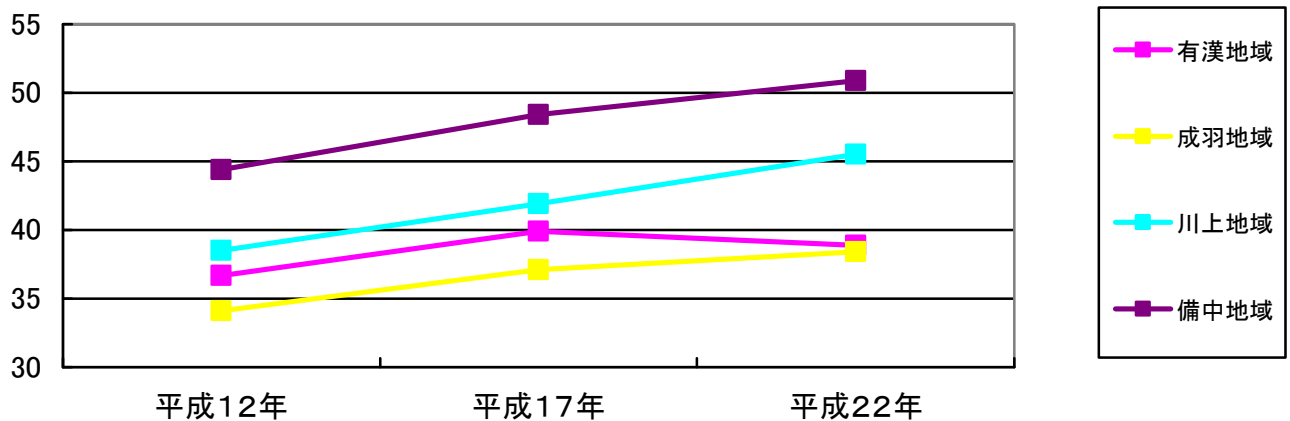
2 | 高齢化について

高齢化率についても、平成22年国勢調査では高梁市全体で35.4%となり、県下の都市で最も高齢化が進んでおり、その中で4地域の高齢化率は44.2%とさらに高くなっています。

(1) 高齢化率（国勢調査）

(単位:人、%)

	平成12年		平成17年		平成22年		備考
	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)	
有漢地域	995	36.7	1,030	39.9	932	38.9	
成羽地域	1,986	34.1	2,039	37.1	1,890	38.4	
川上地域	1,563	38.5	1,545	41.9	1,458	45.5	
備中地域	1,380	44.4	1,297	48.4	1,180	50.9	
計	5,924	37.6	5,911	40.9	5,460	42.5	
高梁市全体	12,651	30.8	12,855	33.1	12,360	35.4	



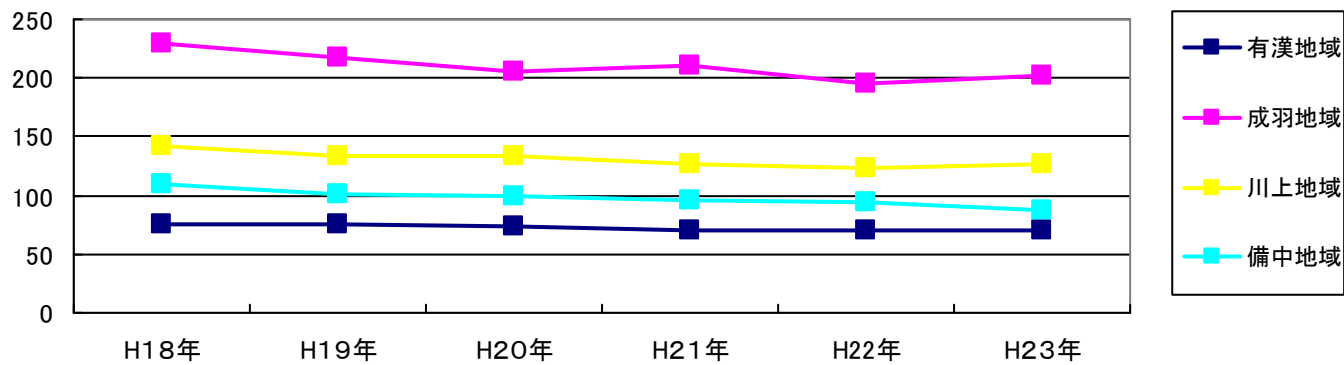
3 | 商業の衰退

過疎化による消費者の減少、県南の大型店舗での消費動向の増加、後継者不足などの要因により廃業が増加し、商工会会員の減少が進んでいます。

(1) 備北商工会地区別会員数（商工観光課調べ）

(単位:人)

	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	備考
有漢地域	76	76	74	70	71	70	
成羽地域	230	217	206	211	195	202	
川上地域	142	134	134	126	123	126	
備中地域	109	101	99	96	95	87	
計	557	528	513	503	484	485	



4 | 地域間の連携

少子高齢化の進展に伴い、地域活力が低下し、各地域の中心部と周辺部の連携が薄れてきている。

また、合併後8年余りが経過する中で、人的及び物理的な問題はあるものの、高梁地域を含めた5地域間の連携が進んでいません。

3. 各地域の現状と将来像

I 有漢地域

1 | 地域の概要

有漢地域は、高梁市の北東部に位置し、地域の面積(旧有漢町)は46.69km²(内耕地面積5.33km²、林野面積34.32km²)、人口は2,397人(平成22年国勢調査)であります。

基幹産業である農業では、水稻の他、ピオーネ、千両なす等の産地化が進んでおり、農産工房を中心に農産加工品の開発にも取り組んでいます。また、(株)夢ファーム有漢で無農薬低細菌野菜(リーフレタス)の生産、高齢者等でも容易なイチゴ高設栽培を導入するなどの取組がなされています。

生活基盤整備については、平成9年3月開通した中国横断自動車道岡山米子線の有漢ICの利活用により、都市部に向かう交通の利便性が飛躍的に向上しています。

また、野球場、多目的グラウンド、グランドゴルフ場(日本グランドゴルフ協会認定コース)のある有漢スポーツパークには、県内はもとより山陰、四国、京阪神から多くの利用者が訪れ、スポーツを通じた交流が活発に行われています。

2 | 地域の問題点

人口減少による空き家の増加、高齢化及び後継者不足による耕作放棄地の増加や商店の閉鎖による商業の衰退が進んでいます。



3 | 地域の方向性

(1)岡山道のインターチェンジを活かした、住みよい街とします。

有漢地域については、道路整備も十分に進んでおり、また、公共施設が中心部に集約するなど、まちがコンパクトに形成されています。こうした地理的条件を有効に活用し、今後の人口減少に歯止めをかけ、地域に融合したスマートコミュニティに取り組むと共に、地域資源を活用し更なる交流人口の増加を目指します。

(将来イメージ)

1. 全国各地で起こる自然災害に対して、安心・安全を求める国民ニーズが増えている中、災害が少なく県南市街地まで30分余りの地理的条件を生かし、再生可能エネルギーを活用するなどの付加価値の大きい住環境整備をすることにより、定住促進が図られます。
2. 岡山道有漢インターチェンジを利用することにより、山陰、四国、京阪神地域からのアクセスが容易であるため、高校スポーツ(野球、テニス)から高齢者のグランドゴルフ等による交流人口が年々増加しており、来場者への飲食等の有償サービスを提供する仕組みを地域で構築することにより、地域振興が図られます。
3. 上記2のニーズに沿った魅力ある施設整備を進めることにより、一層の交流人口の増加が図られます。



Ⅱ 成羽地域

1 | 地域の概要

成羽地域は、高梁市の中西部に位置し、地域の面積(旧成羽町)は81.87km²(内耕地面積5.80km²、林野面積57.08km²)、人口は4,926人(平成22年国勢調査)であります。

基幹産業である農業では、水稻の他、ピオーネ等の生産を行っています。また、県指定の「成羽化石層」、国選定の「吹屋重要伝統的建造物群保存地区」、国指定重要無形民俗文化財の「備中神楽」、児島虎次郎の遺作等を展示している「成羽美術館」、300年の伝統を誇る「成羽愛宕大花火」等多くの観光資源に恵まれ、毎年多くの観光客が訪れています。

また、新たに整備されたへき地医療拠点病院である成羽病院を中心に、地域に密着した医療体制を目指してしています。

2 | 地域の問題点

- ・地域局等の施設が老朽化しており拠点施設の機能が十分でない状況であり、都市機能施設の集約化等早急な整備が必要です。また、少子化により、高等学校再編で閉校となった旧成羽高等学校跡地の利活用について解決が急がれます。
- ・高齢化及び後継者不足による商店の閉鎖により商業の衰退が進んでいます。



3 | 地域の方向性

(1) 公共施設の再編整理を行うことにより、住みよい街とします。

成羽地域の中心部は、公共施設が分散し、商店街の空き店舗も多く見受けられ、都市機能が低下していますが、公共施設の再編整備や空き店舗の活用を図り、今後の人口減少に歯止めをかけ、都市基盤づくりに取り組みます。

(将来イメージ)

1. 現在の文化センター(公民館)を整備し、地域局を移転するなど、各種拠点施設を集約し、導線を商店街に向けることにより商店街の賑わいや、空き家、空き店舗の活用等も図られます。また、変形で手狭な小学校の運動場に隣接する地域局の移転により、小学校の教育環境整備を図ります。
2. 福祉センターを中心とした一体には、観光案内所やバス停などが集中しており、既存施設の有効活用により交流の拠点となります。
美術館についても絵画展示に合わせ、世界的に有名な「成羽の化石」についても充実した展示が行えるよう取り組みます。また、備中神楽などの伝統芸能の伝承活動や情報発信についても、重点的に取り組みます。
3. 旧成羽高校跡地については、老人ホームや幼保一体化施設整備を念頭に置いた、福祉・教育・文化等一体的な活用を目指します。



Ⅲ 川上地域

1 | 地域の概要

川上地域は、高梁市の中西部に位置し、地域の面積(旧川上町)は86.91km²(内耕地面積6.99km²、林野面積57.96km²)、人口は3,207人(平成22年国勢調査)であります。

超高齢社会に先駆け、在宅福祉・在宅介護の充実に目を向け、診療所と在宅介護支援センター・訪問看護ステーションを併設した医療センターや老人保健施設等の施設整備に加え、知的及び身体障害者施設整備のため(社)旭川荘の諸施設を誘致し、社会福祉施設、在宅福祉が充実しています。

恵まれた自然環境の中、地域のシンボルである「弥高山」は、雲海で名高い山頂からの眺望、一体を覆う10万本のツツジなど、四季折々の魅力にあふれています。また、「マンガ文化の町づくり」を地域活性化事業として展開しており、幅広い年齢層に人気を得ています。

2 | 地域の問題点

- ・人口減少による空き家の増加、高齢化や後継者不足による空き店舗の増加などにより、商業の衰退が進んでいます。
- ・地域局等の施設が老朽化しており拠点施設の機能が不十分であることや、公共施設や商業施設の各施設が点在しているため、再編整理が必要です。



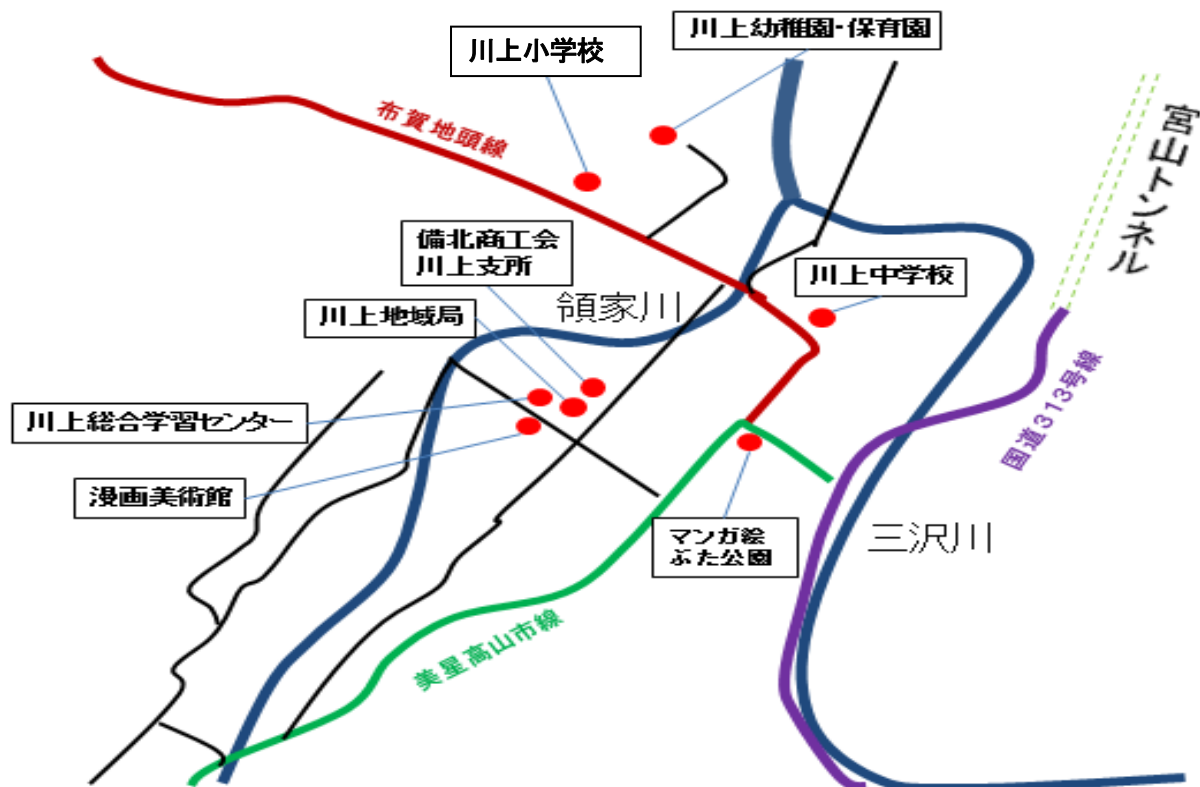
3 | 地域の方向性

(1) 地域資源を生かしたまちづくりにより、住みよい街とします。

川上地域は、福祉施設・農業施設が充実し、多くの雇用を生み出しています。これらの地域資源を生かし、中心部の空き家の活用と連携させた定住促進を図り、今後の人口減少に歯止めをかけ、地域振興に取り組めます。

(将来イメージ)

1. 誘致企業である「アグリテクノ矢崎」と協力し、地域に適した農業の省力化を研究し、耕作放棄地対策を行うと共に、空き家を活用した新規就農等に対する定住促進を行うことで人口減少に歯止めをかけます。
2. 中心部の商業施設や公共施設などのゾーニングを見直し、新たな地域の魅力の発信拠点とし、来訪者と地域住民の交流促進を目指します。
3. 空き家、公共施設等の活用により、医療福祉ゾーンの魅力を高めます。



IV 備中地域

1 | 地域の概要

備中地域は、高梁市の中西部に位置し、地域の面積(旧備中町)は 102.56km²(内耕地面積 6.97km²、林野面積 60.55km²)、人口は 2,320 人(平成 22 年国勢調査)であります。

基幹産業である農業は、トマト、ピオーネ等地域特産作物の生産を行っています。また、これまでの農業スタイルにとらわれず、農地造成を整備し営農団地「山光園」として、近代化・省力化を目指した農業展開をし、若者及び新規就農者促進を図っています。

また、各地の神社の秋祭りに伝承されている、「渡り拍子」など多くの伝統文化等を通じて「ふれあいのある、健やかで生きがいのもてるまちづくり」に取り組んでいます。

2 | 地域の問題点

- ・人口減少による空き家の増加、高齢化及び後継者不足による耕作放棄地の増加や森林の荒廃が進んでいます。
- ・まちづくり活動の中心を担う、地域のリーダーが、高齢化により不足しています。



3 | 地域の方向性

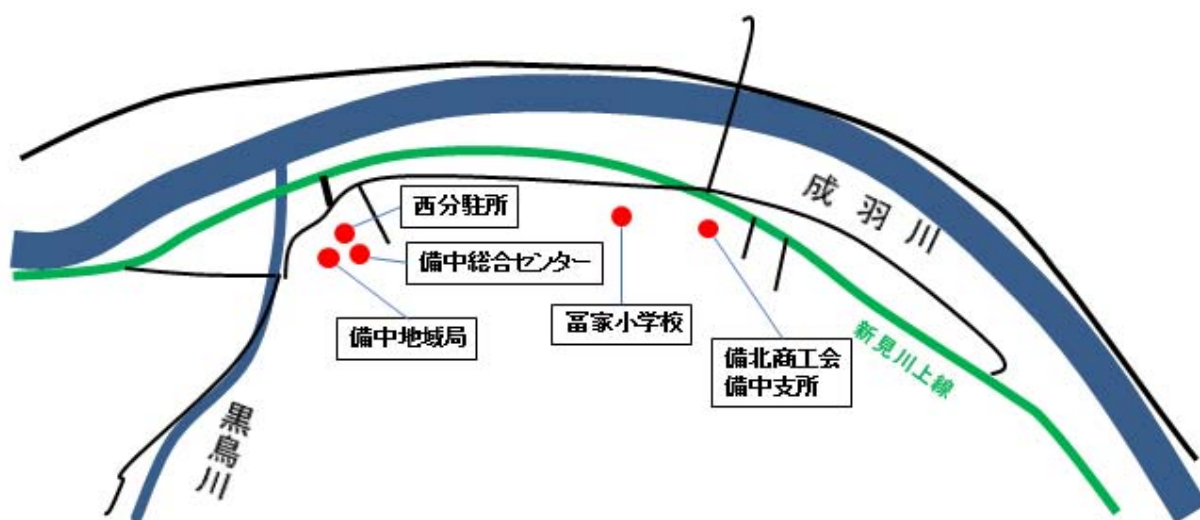
(1) 森林及び農地の健全な保全を行うことにより、住みよい街とします。

備中地域は、桃太郎トマト、ニューピオーネなどブランド農産物の県内有数の生産地域であり、高齢化、後継者不足等の大きな問題を抱えていますが、山光園整備を成功事例として、新規就農者による定住対策

につながる新たな事業拡大を図り、今後の人口減少に歯止めをかけ、地域振興に取り組みます。

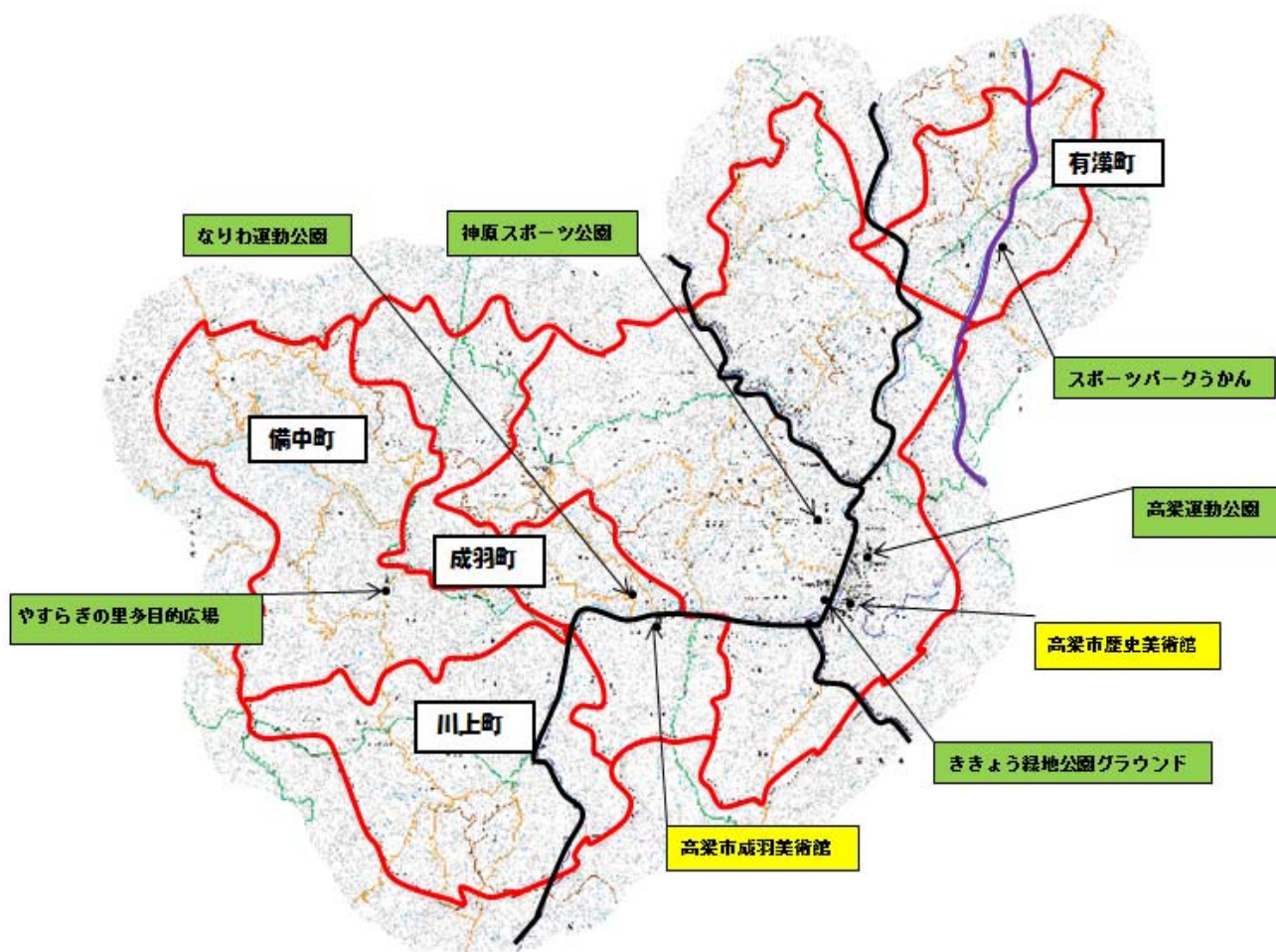
(将来イメージ)

1. 空き家と耕作放棄地、使用していない農業用施設を連携させた空き家等のバンク情報を整理し、付加価値のある物件情報をアピールすることにより、新規就農や定住者の増加を促進するとともに、ブランド農産物の後継者不足の解消を進めます。
2. 森林について整備対策を行い、健全な山林が再生され良質な漆の復興により、「備中漆」関連の産業振興の復活を目指します。
3. ケーブルテレビ網を利用し、中心部の空き家・空き店舗を活用した ICT の活用モデル事業を展開します。



4. 各地域間の連携

各地域とも、公共交通網の再編・整備等により、中心部と周辺部の連携を図るとともに、地域が持つ「強み」と「弱み」の共通認識や情報の一元化を図り、施設の再編や有効活用など、地域間の連携と交流を推進します。



5. 推進方針

- 市民と行政の役割分担や考え方を明確にした協働のまちづくりを進めます。
- 各地域の将来像の実現に向け、都市計画マスタープランや総合計画後期基本計画へ反映し、課題先進都市として全国のモデル的な取り組みを目指した事業の実現化を図ります。

